

# ふじいろ

2024年度  
秋



東郷池のほとりにて

- ◆ 訪問看護リハビリステーションくらよし
- ◆ リハビリテーション通信「MDSJパーキンソン病療養指導士の活動」
- ◆ 緩和ケア病棟遺族会を開催
- ◆ けんしんCafe「乳がん検診を受けましょう」

チームで支えて地域の架け橋になります

# 訪問看護リハビリステーションくらよし

「ようこそ、ようこそ 待ったに…よう来てごしなった」  
笑顔、安堵の表情で迎えられる本人とご家族に、私たちが「今日も元気に過ごせてよかったですね」と笑顔で声かけ。

住み慣れた環境で「自分時間」を過ごしていただけるよう、訪問看護リハビリステーションくらよしは、現在8名の看護師とリハビリ職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）で訪問に出かけています。

## 訪問看護リハビリステーションくらよしの特徴

- 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3職種が配置され、リハビリテーションが充実
- 疼痛管理、症状緩和に適切に対処。必要に応じて緩和病棟とも連携を取り、ターミナルケア（終末期）を支援
- 障害のあるお子様の成長と発達を、ご家族とともにサポート
- 神経難病※の方を支援します  
（※パーキンソン病、ALS（筋萎縮性側索硬化症）等）

## ＊ ＊ 不安や希望に寄り添います ＊ ＊



本人は最期まで家で過ごしたいと望まれ、家族もその希望を尊重したいと思っても、病状が進み本人が辛そうにされると「入院した方が良いのでは」と心が揺れることもあります。

訪問看護では、医療処置を行うだけではなく、ご本人ご家族の揺れ動く想いに寄り添いながら、主治医やケアマネジャーなどとも協力し、チームで一致団結し最期までご本人ご家族を支えます。

「こんなに管がついているのに、家に連れて帰るなんて…」ご家族の戸惑いの声。

聞きなれない専門用語や医療機器、医療処置など、不安が高まるのは当然のことです。私たち訪問看護は、ご本人の入院中より、退院後の生活を想定した試験外泊をはじめ、退院の準備をサポートいたします。

実際にご自宅に外泊して過ごしてみると、退院後の生活のイメージをつかみ、具体的に必要な準備をすることができます。ご自宅の空気を吸い、ご本人の生きる希望と意欲がわいてくることも。

医療処置、手技もご本人ご家族が慣れるまでご指導し、安心して退院できるよう支援します。

私たちは0歳児～高齢者まで、すべての方が利用できる訪問看護ステーションとして、24時間365日の緊急体制の下、ご本人とご家族の安心・安全な療養生活を支援しています。

## 訪問看護リハビリステーションくらよし

住所：鳥取県倉吉市山根43-1

電話：0858-26-1904

営業時間：月～金曜日 8：30～17：30

土日祝日、お盆（8/14～15）、

年末年始（12/30～1/3）はお休みです

サービスエリア：鳥取県中部圏域（倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町）



# リハビリテーション通信

## 活動報告

### ～ パーキンソン病療養指導士の活動～

藤井政雄記念病院リハビリテーション室では、MDSJパーキンソン病療養指導士取得者を中心に「全国パーキンソン病友の会鳥取県支部」へのボランティア活動（「患者の集い」や「無料体操教室」の協力）を月1～2回の頻度で参加しています。



友の会が院外施設と連携して行う体操教室

パーキンソン病当事者・ご家族が集まり、日頃の困りごと・将来への不安を中心とした思いを分かち合う場である「患者の集い」の開催のお手伝いや、「無料体操教室」で、会員の皆さんが安全かつ安心して体操に取り組める手助けをさせて頂いています。

今までの活動を通して、医療従事者としてたくさんの学びがありました。学んだものを当院のリハビリテーションにも活かして、地域への還元とよりよい医療の実現に繋げていきたいと思えます。

パーキンソン病療養指導士とは・・・

日本パーキンソン病・運動障害疾患学会（MDSJ）が主催する研修受講と試験の合格により認定を受ける資格です。パーキンソン病に関して専門的な知識を習得し、より専門性の高い関わりや、当事者やご家族の困りごとに寄り添う支援を役割としています。



## 緩和ケア病棟遺族会を開催



11月16日、当院緩和ケア病棟でお亡くなりになられた患者さんを偲び、遺族会「えにしだの会」を開催し、19名ものご遺族にご参加いただきました。

会は、音楽療法士によるフルート演奏に続き、藤井教雄医師の心のこもった開会の挨拶で幕を開けました。

その後、緩和ケアスタッフが亡き患者さんへのメッセージを映像とともに朗読しました。患者さんの生前のお姿が映像に映し出されると、会場には涙ぐむご遺族の姿が見受けられました。

続いて、オカリナの優しくも明るい音色が会場を包み、ご遺族の心を癒しました。



コロナ禍を経て5年ぶりの開催となりました



ご遺族と患者さんへの想いを共有

藤井医師と看護師スタッフは各テーブルを回りながら、ご遺族とともに亡き患者さんの思い出や現在の生活について語り合いました。お互いの境遇に深く共感し、涙を流されるご遺族もいらっしゃいました。

最後にチャプレンさんから祈りのお話をいただいた後、前田看護師長がご遺族に向けて感謝の言葉を述べ、閉会となりました。閉会後も席に残られ、互いにお話をされるご遺族の方もいらっしゃいました。

微力ではありますが、こうした集いを通じてご遺族の心の癒しと回復のお手伝いができるよう、今後もスタッフ一同、力を尽くしてまいります。

# けんしんCafe



## 乳がん検診を受けましょう

乳房用3D自動超音波装置の検査をしばらく中止しておりましたが、12月から再開の予定となりました。この機器は、県内では当院を含め2台しか導入されていません。

### 乳房用3D自動超音波装置を使った検査とは？

- 音の性質（透過と反射）を利用して生体内の断層像を描出する検査です。
- 無侵襲でありX線被曝がありませんので、安心して検査をお受けいただけます。
- 薬や注射は使用しません。超音波の透過を良くするため、専用のローション（白い乳液状のもの）を塗って探触子（センサー）を体にあてて検査します。
- 通常は左右の胸をそれぞれ3回程度撮影し、合計6回撮影して終了です。検査は両胸で15～20分程度で終了します。



女性スタッフが対応します

日本の女性では、乳がんはがんの死亡率の上位に位置し、30代後半から罹患率が増加します。40歳以上の女性では最も罹患する人が多いがんです。

40歳からは乳がん検診として、2年に1回のマンモグラフィ検査の受診が推奨されています。

自己触診ではわからない異常も、マンモグラフィでは見つけることができます。さらに、乳房用3D自動超音波装置をマンモグラフィ検査と併用することで、マンモグラフィでは見つけにくい異常を発見しやすくなります。

マンモグラフィ検査と乳房用3D自動超音波装置のセットで8,800円にてご用意しております。所用時間は合わせて30分程度です。

今年度の乳がん検診がまだの方は、是非ご検討ください。

### お問い合わせ先

藤井政雄記念病院ヘルスケアセンター予約専用ダイヤル

0858-26-2125（平日12：00～13：30、16：30～18：00）

## 病院理念

いつでも誰にでも安全で質の高い医療を提供し、  
地域住民に必要とされる病院になるよう全力を尽くします。

——病む人の気持ちになって、

最善・最高の医療を提供する——

社会医療法人 仁厚会

 藤井政雄記念病院

〒682-0023 鳥取県倉吉市山根43-1

TEL: 0858-26-2111(代表)

E-mail: fujii-hp@med-wel.jp

HP: <https://www.med-wel.jp/fujii/>

藤井政雄記念病院

検索